

♪ わが家のアイドル ♪



錦織中
松井 杏虹ちゃん (2カ月)
10年の間をわいて産まれた
6人目の孫 みんなのアイドル!



川面町
今井 駿ちゃん (6カ月)
架菜ちゃん (6カ月)
2人仲良く元気に育ってね♡



別井
片山 瑛太郎ちゃん (5歳)
愛子ちゃん (2歳)
ケンカいっぱい♪笑顔いっぱい♪
元気いっぱい♪

みんなの広場

宛先

〒584-8511
富田林市役所
情報公開課広報係
常盤町1番1号
住所・氏名(ふりがな)・電話番号

わが家のアイドル (対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真の裏に、**名前(ふりがな)**と**撮影時の年齢(月齢)**を記入し、**メッセージ(20字程度)**を添えて、封書で左記の宛先まで応募してください。

なお、今応募された場合、掲載は約2カ月後になります。

100歳 おめでとうございます!



6月25日、100歳の誕生日を迎えられた東 龍一さんを訪問しました。ご自宅近くのお店に店番で出られることもあるそうです。

短歌

武都紀 若松 寿子選

秀歌 Ⅱ
陽だまりにゆうゆう座わる猫二匹ゆったり生きると教えられけり
南旭ヶ丘町 柳井 義信

ハ選評V作者はお独り住まいの日常を心豊かに過ごして居られるのが読み手に伝わって来る。陽だまりに座る猫にも温かい目を向けて「ゆったり生きると教えられけり」と人生を達観されたお歌に感動して、我家の飼犬に目を向けた。
亡き夫の絞り模様様の兵児帯で吾の穿くギャザースカート作りぬ 錦織東 今西 淑子
入学児何でこんな可愛い広報五月トップに見ゆ 津々山台 岡林 均

「おめでとー」誕生祝の葉書には四才曾孫の必死の筆跡 青葉丘 竹本 美代榮
うた詠みの孤独もたのし言の葉を選びつ迷いつ時を忘れつ 甘南備 笹原 肇

夫告げる間近に生まれる初曾孫女の子だと満面の笑み 彼方 今道 キヌ子
遺品なる母の鉛筆夫のペン此の世の思い引き継ぎて書く 藤沢台 竹内 治枝

草とわれ闘う庭へしぶく雨ころ静かに朝餉作らん 選者 詠
※9月号は「俳句」を掲載します(なお、応募は7月31日で締め切りました)

川柳・短歌・俳句は、それぞれ別のがきて応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

10月号の「川柳(宿題「ひととき」)は8月31日(水)、11月号の「短歌」は9月30日(金)、12月号の「俳句」は10月31日(月)までに応募(いずれも必着)してください。宛先は上記をご覧ください。

げんきっ!NPO

NPOとは営利を目的とせず社会活動をする組織です



市民公益活動支援センターの開館時間を延長しました

6月1日から、市民公益活動支援センターの開館時間を3時間30分延長し、午前9時～午後9時までとなっていることをご存じですか。

同支援センターは、市民公益活動の拠点施設として、町会（自治会）などの地縁団体や「子育て」「高齢者福祉」「まちづくり」などの課題解決をテーマに活動する団体など、市民による自発的・自主的・継続的な社会貢献活動をする団体や個人を対象に、市民公益活動のために必要なさまざまな支援やサービスを実施しています。

市民公益活動支援センターで受けられる支援やサービス

- 交流機会の提供
- 活動場所の提供（市内10カ所）
- 団体の設立や運営についての相談
- 市民公益活動に関わる情報の収集や発信
- シンポジウムや講座の開催
- 印刷機やワイヤレスアンテナなど備品の貸し出し

今回、開館時間を延長することによって、これまでの開館時間帯では仕事などで利用する機会が無かった活動団体や個人が利用できるようになり、新たな活動や人材が発掘できると期待しています。

さらに団体と個人の間や団体と団体の間を取り持つマッチング・コーディネートを積極的に実施することにより、個々の団体や個人が活動の輪を広げ、実績を積む機会を得る支援をしていきます。

あらゆる世代の市民による市民公益活動が活性化していくと、活動を通じて自らが住む地域に愛着を持ち、まちづくりに関心を寄せ、主体的に参加する市民が増えていくこととなります。それにより、自ら動き、互いに助け合い、共に支えていく意識を持った市民によって運営される地域へと発展していくことができるのではないかと考えています。

これまで同支援センターを利用する機会がなかった人は、ぜひご利用ください。面白いことが見つかると思います。

また、現在利用されている人も、引き続き同支援センターをご利用いただき、どんどん活動の輪、交流の輪を広げてください。そして、「住み良いまち富田林」をみんなで作っていきましょう。

市民協働課（内線 473）

わがまちこのびと

石川のアユ復活へ！

富田林高等学校科学部

今回は、本市を流れる石川にアユを復活させようと奮闘している富田林高等学校科学部の皆さんをご紹介します。

同科学部がこの活動を始めたのは4年前で、「大和川では天然のアユの遡上^りが確認されているのに、学校の近くを流れる石川になぜアユがいないのだろう」と疑問に思ったのがきっかけです。

まず、アユの遡上の障害となっている原因を突き止めるため、石川の下流域（富田林高等学校と大和川の合流点までの約10^{キロ}）を調査したところ、落差が大きいのに魚道がない井堰^{いせき}が4カ所あり、アユの遡上を阻んでいることが分かったそうです。

そこで、これらの井堰に魚道があれば実際にアユが遡上するのかが証明するため、昨年5月、アユの遡上時期に合わせて、最も下流部分にある「松井井堰」に「サイフォン・パイプ式」の魚道を約1カ月間設置し、アユの遡上実験を実施しましたが、この実験では、アユが魚道を通って遡上したかどうかは確認できなかつたそうです。

この結果を受け、今年4月、より自然に近い形で、アユが遡上しやすいと考えられる「土のう積み上げ式」の魚道作りに挑戦。完成後に、大雨による増水

で土のうが流されてしまうというハプニングに遭いながらも、あきらめずに作り直し、4月30日、ついにアユが魚道を遡上する姿を確認できたそうです。

活動の中心メンバーで2年生の富永 悠さんは「たくさんの人の協力を得て、魚道さえあれば、石川にもアユが遡上することが証明できた。今後も継続して活動を続けることで、石川の流域に住む人に関心を持ってもらい、恒久的な魚道作りにつながればうれしい」と話してくれました。

なお、同科学部には、この活動の中心となった「魚類班」の他、「地震・防災班」「ホテル班」「ホバークラフト班」「ロボット班」の4つの班があり、29人の部員がそれぞれの分野で活動中です。今後、同科学部の活躍に期待しています。

※同科学部では、8月20日（土）に小学生と一緒に石川に住む魚の観察などをする「富田林で一番受けた授業『理科編』」を開催します（28ページ参照）ので、ぜひご参加ください。

